大豆栽培技術資料

令和８年 10 月 30 日
下都賀農業振興事務所

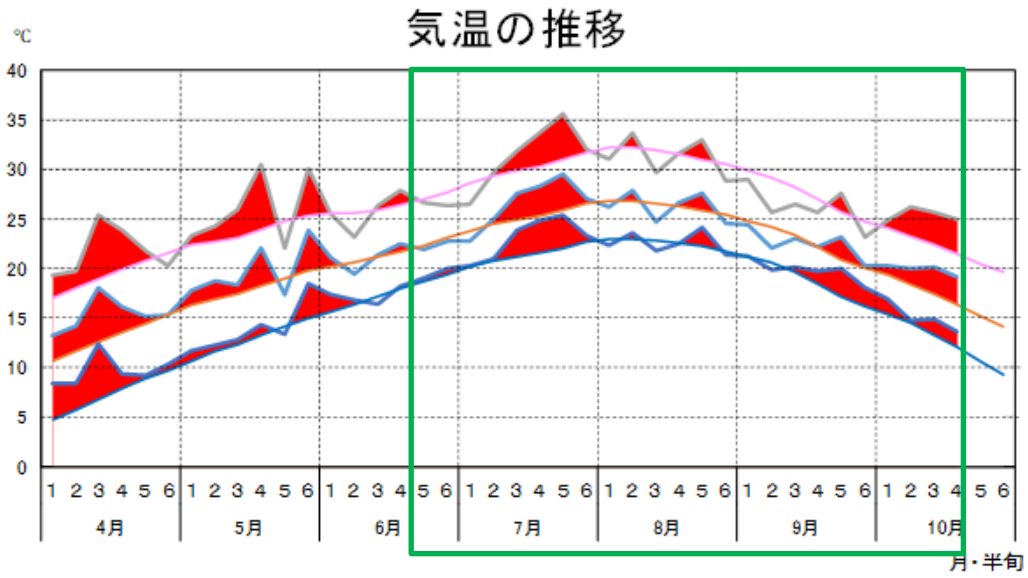
重点ポイント

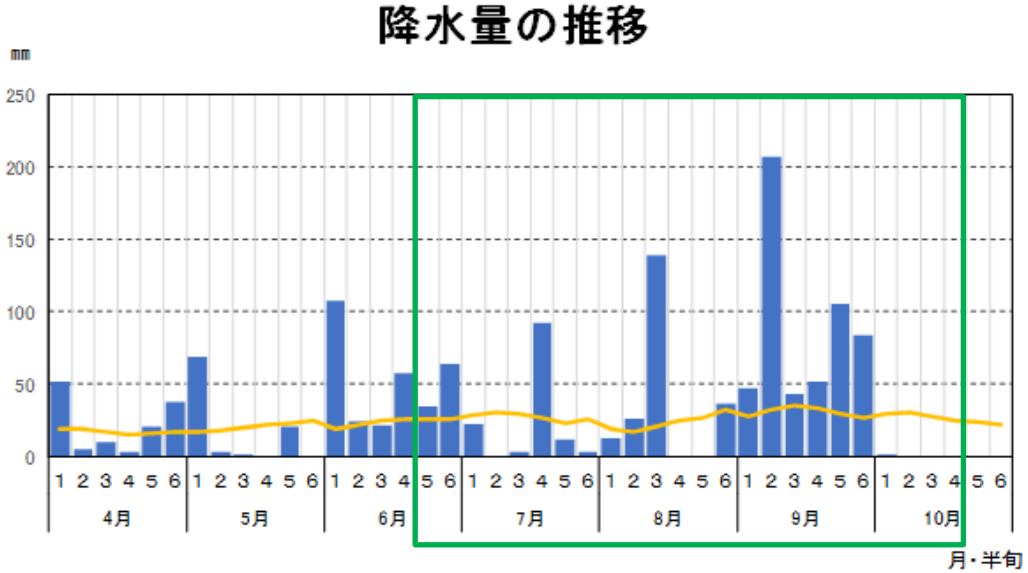
適期収穫により、汚損粒やしわ粒の発生などの品質低下を防止しましょう！



１　気象の推移と生育状況

・６月下旬～10 月中旬まで平年並に気温は推移しました。
・６月～７月第１半旬まで断続的な降雨が続き、播種が遅れたほ場が多く見られました。
昨年の干ばつ状態と異なり、今年は適度な降雨があったため、適期播種できたほ場の生育は順調です。
・６月 30 日に播種したほ場では、８月８日に開花期となりました。
・７月 10 日に播種したほ場では、８月 15 日に開花期となりました。
・７月 21 日に播種したほ場では、８月 24 日に開花期となりました。
・７月 30 日に播種したほ場では、９月２日に開花期となりました。





2 適期収穫

・収穫期は、茎や莢が変色し軽く振ると子実がカラカラ音をたてる時期です。
※茎水分 40%以下（汚粒発生防止）、子実水分 18%以下（破砕粒発生防止）
・里のほほえみの最下着莢高は高く、高刈りしても収穫ロスはほとんど出ないので、
刈取り高さ 10cm 以上を確保して汚損粒防止に努めましょう。

茎水分の目安
70%：緑色が残る
60%：莢と同じ褐色
40%：ほとんどの茎が黒変開始し、剥皮率が 30%程度 手で折ると軽くポキッと折れる

子実水分の目安
20%：噛むと音がせずに割れる
18%：爪を立てると少し跡が残る
15%：噛むとパリッと割れる



⚠収穫前には、青立ち株や大型雑草を除去し、汚損粒の発生防止に努めましょう。

⚠刈り遅れると亀甲じわ・腐敗粒が発生しやすくなります。
収穫適期となったら、可能な限り早く収穫することで対策しましょう。また、収穫後に湿度が高い場所に置くと水分が戻り、亀甲じわ粒が多くなることがあるため、注意しましょう。


写真　亀甲じわ粒

⚠収穫後乾燥せずに放置すると紫斑粒率が増加するため、速やかに乾燥しましょう。
紫斑病・べと病に罹病した子実は、調製を丁寧に行い、除去しましょう。
また、紫斑病・べと病が多発した場合、次作の同ほ場への作付を避けましょう。


写真　べと病（子実）


写真　紫斑粒

⚠乾燥の際は、出荷時子実水分が 13%を目安に乾燥しましょう。
急激な乾燥はしわ粒発生の原因となるので注意しましょう。



9月～11月は「秋の農作業安全確認運動」の実施期間です。
「自分だけは大丈夫」と思わないで、いつもの作業も安全確認を！